

# 保育者養成課程における「日本語表現」の教育内容 — 意見文作成から見る「書く能力」の実態と課題 —

Educational content of "Japanese expression" in a Child care worker training course  
— The realities and problem of "Ability to write" judged from student's opinion sentence —

細田 香織

(こども学科 特任助教)

**要旨** 本稿は、①基礎知識の習得、②専門性、③学生の実態やニーズ、の三点に配慮した「日本語表現」科目の実践から、書く能力の向上に対する効果的な教育内容について考察するものである。「意見文を發表しよう」の実践を基に、学生の意見文から「添削が必要な表記」の実態を分析し、15例のタイプを抽出した。授業後アンケートからは、自己添削を課すことによって各自が誤りやすい文章の癖に気づけたことや、他者の意見文を聴いたことにより、ものの見方が広がったことが確認された。このことから、自己添削がもたらす意識変容の効果、発表会等における交流の有効性が確認できた。これらを踏まえた上で、学生の更なる文章力向上のための効果的な教育内容について展望を述べた。

【キーワード：保育者養成課程 日本語表現 書く力】

## I. はじめに

本稿は、高木(2008)<sup>1</sup>で示した「日本語表現」科目の指導理念を踏まえた実践を基に、学生の作文能力の実態を探り、指導の課題と対策を考察するものである。高木(2008)では、大学全入時代<sup>2</sup>における「日本語表現」科目の指導について①基礎知識の習得、②専門性、③学生の実態やニーズ、の三点に配慮することの必要性に触れ、これらを指導理念とした授業実践を報告した。特に専門性の中に、本短期大学の性質である「保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を養成する専門」の認識を強く持ち、職能に関わる授業を目指したものである。

ここでは、以上の理念に基づいた「日本語表現Ⅱ(口語表現)」の授業の中から「新聞記事の比べ読みから自分の意見を確立し、意見発表会を行う」実践を取り上げ、学生の文章表現の実態を分析する。社会に出る直前の指導であるという認識を強く持ち、基礎的な書く力を養成するための課題を明確にした上で、更に②専門性、③学生の実態やニーズ、に配慮した作文指導の展望について考察したい。

## II. 問題の所在

### 1) 求められる「書く能力」と指導の工夫

本学では、ほぼ全員の学生が三回程度の実習に出る。そしてその度に「実習の課題」「実習への抱負」などを含んだ提出書類を作成する。各実習の担当教員がそれぞれ学生の書いた内容をチェックし指導するのだが、ここで文章能力の差が歴然と出てくる。ごく少数ではあるが、全て書き直しになるものもあり、更に期限が迫ってくると、やむなくほとんど教員が書いたものを写す最終手段も存在する。これらの現状を鑑みて、最低でも実習書類や就職志願書においては、手直しが入らずとも自分の意志を相手に伝わる文章で表現できるよう、学生の「書くこと」への意識を高めたい。

二年間で三度の実習と就職活動をこなすこと、更に就職先ではお便り帳やクラス便り等を書くことを想定した上で、学生の「書く力」の育成は必須である。特に、「伝えたい内容」を明確に意識し「他者に伝わるように」書けるよう、指導を工夫する必要がある。

そこで本実践では、比べ読みを通して自分の意見を確立し、他者に伝わるよう根拠を明確にしながら意見文を作成することと、自己添削を行うことで各自が文章表現の誤りに気付くことを目指した。「実習への抱負」や「クラス便り」を書くという実用的な課題でも良いだろうが、結局そのまま

写すものが出来上がるだけという可能性がある上、クラス便りは別の授業でも扱っているため、あえて意見文という課題を用意した。自分の意見を明確にし、他者へ説得力のある文章で示すことに「意見文」は適しており、更に保育に関する記事を読むことで子どもをめぐる環境や現状について深く考える機会にもなると考えた。

また、自己添削を導入した理由は、教師の添削のみでは、言われた通りに書き直すだけで気付くことが少ないと考えたためである。しかし、自己添削の場合、添削のポイントを事前に伝えておかなければ意味がない。事前に基本的な例を挙げたが、実際に行ってみると、それ以上に添削すべきポイントがたくさん見えてきた。そこで、今回の学生の文章をもとに、学生達の実態に即した「添削のポイント」を取り出し、今後の指導につなげたい。

## 2) 大学における「書くこと」指導の「基礎」

筆者は、指導理念の一つを①基礎知識の習得としてきた。すると、「書く」ことの基礎を一体何におくかという問いがでてくる。そこで、この答えを小・中学校の新学習指導要領における「書くこと」の内容としたい。もちろん高等学校の学習指導要領の内容も考慮に入れるが、義務教育で培うべき力を基礎と捉え、その力を補った上で、更に専門に関する知識や子どもと向き合う大人としての深い思考に繋げたい。

新学習指導要領の系統表より、中学三年生の「書くこと」の目標及び内容を記す<sup>3</sup>。

目標：目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く能力を身につけさせるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。

課題設定や取材：社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。

記述：論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。

推敲：書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。

交流：書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して

自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること

これらを踏まえた上で、意見文を相互発表するという実践を行った。

大学には学習指導要領のような体系立ったものは出されていないが、2008年に中央教育審議会より「学士課程教育の構築に向けて」という答申が出され、参考の指針が提示されている。<sup>4</sup>

各専攻分野を通じて培う学士力

～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～

### 1. 知識・理解

専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。

(1) 多文化・異文化に関する知識の理解

(2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解

### 2. 汎用的技能

知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能

(1) コミュニケーション・スキル

日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。

(2) 数量的スキル

自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。

(3) 情報リテラシー

情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。

(4) 論理的思考力

情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。

(5) 問題解決力

問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。

### 3. 態度・志向性

(1) 自己管理力

自らを律して行動できる。

(2) チームワーク、リーダーシップ

他者と協調・協働して行動できる。また、他

者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。

(3) 倫理観

自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。

(4) 市民としての社会的責任

社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。

(5) 生涯学習力

卒業後も自律・自立して学習できる。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

この内容と照らし合わせると、1. 知識・理解 (2) 人類の文化, 社会と自然に関する知識理解, 2. 汎用的技能 (1) コミュニケーション・スキル, (4) 論理的思考力, (5) 問題解決力, の育成に当たる実践である。特に、「プラス面・マイナス面の両方を書き出す」「あえて反論を立てる」という作業は、問題解決的視座を持った上で文章を論理的に組み立て、相手に説得力を与えるために必要な手だてとして導入した。また、子どもをめぐる社会的な問題について考えることは、3. 態度・志向性 (4) 市民としての社会的責任, にも繋がる事が期待できる。

### III. 「日本語表現Ⅱ (口語表現)」の実践について

#### 1. 選択科目「日本語表現Ⅱ (口語表現)」とクラス編成

本科目は、英語の習熟度別編成でクラスが構成されている。これは、日本語表現と英語が同時開講されているためであり、一年生が4クラスに分けられている。指導者は2人で、それぞれが2クラスずつ担当している。

後期選択科目「日本語表現Ⅱ (口語表現)」は、前期必修科目「日本語表現Ⅰ (文章表現)」に続くものとして今年から設定された。今年、前期にクラスを受け持った指導者と後期を受け持つ指導者とが入り替わることに決定し、それぞれ前期で築かれた授業スタイルが後期に続かないようになっている<sup>5</sup>。この方法には、2人の指導者の持ち味

を活かした授業を学生全員が受講する機会が与えられるという利点がある。しかし一方で、前期授業に続くものとしての意味が薄れ、また、前期授業で築いてきた指導者と学生との指導の流れが遮断されるという難点もある。

#### 2. 履修者

履修人数は、16名であった。履修者の全員が、保育士もしくは幼稚園教諭を志す学生である。

#### 3. 実践「意見文を発表しよう」について

##### 1) 目標と評価の観点

①基礎知識の習得, ②専門性, ③学生の実態やニーズ, の三点を考慮に入れ、目標を以下のようにした。

○保育に関係する記事を読むことで社会の事象や保育について知り、それらに対する自分の意見を持ち、書くことが出来る。

○手引きに従って構成メモを取ることで、文章構成の方法を知り、それを意見文作成に活かすことが出来る。

○自ら添削(及び推敲)を行うことで、自分の間違いの癖を知り、今後の文章作成に向けて注意しようとする態度を育てる。

○自分の意見を明確に持ち、他者に伝えるように意識して書ける。

○姿勢、声の大きさ、間の取り方、聞く態度等、「話す・聞く」の態度を意識し、互いの発表を評価することができる。

これに基づいた評価の観点は、次のとおりである。

○記事の内容に基づいて自分の意見を持ち、感想が書けている。

○構成メモを基に、意見文が作成できている。

○自己添削を行ったことで自分の間違いの癖を知り、注意しようとしている。

○自分の意見を明確に持ち、他者に伝えるよう意見文が書けている。

○姿勢、声の大きさ、間の取り方、聞く態度等、「話す・聞く」の態度を意識し、互いの発表を評価できている。

##### 2) 比べ読みの記事

記事は、「月刊 切り抜き速報 保育と幼児教育版」から選定した。本実践の前に別の記事もいくつか読ませ、感想を書かせている。今回取り上げたのは、砂場に関するものである。一方には、清潔を求める保護者の声やそれに対応する公園管理の実態が、もう一方には、清潔さよりも砂場遊びの大切さを訴える声や狭められる遊び場への不安が書かれている。

- ①2010.5.29 読売新聞（東京）夕刊：「不潔は嫌」屋内砂場—犬猫よけ 公園には柵—<sup>6</sup>  
清潔な屋内砂場の話題とそこで遊ばせる保護者の声、犬猫のふんを避けるために公園の砂場に柵が設けられている実態、また不潔を理由に公園から砂場が撤去されている現状を伝えている。
- ②2010.5.10 朝日新聞（東京）朝刊：「どろんこ遊び人気 清潔志向に違和感も」<sup>7</sup>  
幼稚園の砂場で工夫を凝らしながら泥まみれになって遊ぶ子ども達の姿と、保護者の清潔志向を悲観する園長の言葉。また、本物の調理道具を砂場遊びに持たせる保護者の姿や、最近の遊び場の問題点（遊びが制限される実態）を指摘する声を伝えている。

授業者として、全員が同じ意見で文章を書くことを危惧していたが、16名中13名が「屋内砂場や柵、行き過ぎた清潔志向に反対」、2名が「清潔な屋内砂場も外の砂場もどちらも需要があり、必要」、1名が「公園の柵に賛成」と分かれた。さらに、根拠や挙げる例は皆違っていったため、内容に広がりのある意見発表会に結びついた。

### 3) 授業の流れ

ワークシート<資料1>に従って、次のように書き進めさせた。

- i ①・②の記事を読み、感想を書く
- ii 取り上げる事柄について、それぞれのプラス面・マイナス面を考え、書き出す
- iii 自分の主張を決定する
- iv 自分の主張に関連した体験や見聞を集める（推測にならないよう注意する）
- v 反対意見を予想し、反論を考える

vi 1～5を基に構成メモ<資料2><sup>8</sup>を作成する

vii 意見文を書く

viii 自己添削・推敲をする

更に、発表のための事前指導（話し方・聴き方）を行い、意見発表会を開いた。

意見発表会では、それぞれの発表について相互評価を行った。評価の内容は、

- ① 姿勢
- ② 声の大きさ
- ③ 話す早さ
- ④ 間の取り方
- ⑤ 視線
- ⑥ 聞きやすさ
- ⑦ 内容のわかりやすさ

の7つである。更に簡単な感想を三行程度で書かせた。

## IV 結果と考察

### 1. 「書く」作業中の質問について

意見文を書く間は、授業者は机間を歩き、適宜質問に応じた。その際、「書きたいことはあるが、どうつなげて良いのかわからない」「どう書き出したらよいか分からない」「順序立てて説明する方法が分からない」等の質問が上がった。構成メモに従って書くというだけでは、困難を感じるようであった。

書き出し・接続詞・分かりやすく伝えるための順序立ても、指導のポイントであることが確認された。今回は、個別に対応し、アドバイスをを行った。いくつか手本となる意見文を読ませ、書き出しや接続詞、順序立てを確認した上で作業に移ると、更に書きやすくなると予想される。

### 2. 学生の添削箇所

自己添削の前に、添削のポイントとして以下の6つを伝えた。

- ①誤字脱字 ②重複 ③一文が長すぎる
- ④常体・敬体の混同
- ⑤主述のねじれ（支離滅裂）
- ⑥漢字で書ける字を平仮名で書いている

次に、実際に添削が必要だった文章表現を記す。

- ①誤字脱字 … 水分補求・道距・自然に解れる・

汚れる 等

- ②重複 … 私たちが遊んでいた十五年ぐらい前の時の公園の砂場は加熱処理されていませんでした。加熱処理がされた砂ではなかったのできれいな砂場ではなかったけれど、病気になるたりしたことはありませんでした。 等
- ③一文が長すぎる … 理由は、サラサラの砂だと砂に水を入れることもできないので、どろを固めて、どろだんごを作ることも、どろを様々な形の型に入れて、ひっくり返しても固まらずに、すぐにくずれてしまい、本当に遊びたいことができないと思ったからです。 等
- ④常体・敬体の混同
- ⑤主述のねじれ（支離滅裂）… すべて飼い主が悪いわけではなく、私は犬や猫を飼うということは、一生懸命愛情をもって育てていくことだと思います。
- ⑥漢字で書ける字を平仮名で書いている … きたなくなる・ひていする親 等
- ⑦主語の欠如
- ⑧文体の不一致 … なぜなら、学び取れることもあれば、（略）絆を深めることができる。
- ⑨～なく、～ … 自然に遊ぶことができなく、公園を利用する人が減ってしまう。  
… 消毒がいきとどいてなくきれいではありません。
- ⑩話し言葉の癖 … 別に室内に砂場があることには反対はしませんが、別にオーストラリア産の白砂でなくてもいいと思います。・～なきやいけないのかなどと思います。
- ⑪願望的表現 … 子どもの気持ちを第一に考えてほしいです・子どものためを考えれば、柵のない外の砂場で伸び伸びと遊び、周囲にいる親や知らない子と関わってほしいです。
- ⑫一方的に訴える … 自分の思いだけで、子どもの遊ぶ自由を奪わないでください。  
… 人とのコミュニケーションができない子になってしまいますよ。
- ⑬口語的接続詞 … でも・なので
- ⑭言葉が足らず説明不足 … 汚れても良い服などを着て砂場をしたりすれば良い と思い

ます。 等

#### ⑮多すぎる読点の削除

以上のように、最初に示したポイント以外にも9つの「直すべき」箇所が見つかった。これらについては、学生自身が気付いたものもあるが、大半はこちらから指摘をし、学生が全体を見直して同じ間違いをしている部分を自己添削するという作業になった。

添削の内容を考察することで、それぞれの間違いの癖を指導者側も発見できた。また、⑨「～なく、～」⑩「願望的表現」⑫「一方的に訴える」は特に指導者の発想にない改めるべき表現であった。これらの表現は数名が使っており、今後入学する学生にも起こり得るものだとということが認識された。

添削なしでは意味の通らない作文もあれば、ほとんど手直しのいらないものもあった。しかし総じて、1人1人の文章の間違い方の癖が、自己添削によって明らかになった感がある。

### 3. 事後アンケートから

授業に関する事後アンケートを行った。3名は実習のため欠席し、13名の回答を得た。

質問：自分の文章の添削すべき間違いには、どんなものがありましたか？

- ・途中で何を書いているのわからなくなり、同じようなことを何回も書いてしまう。
- ・漢字の間違い
- ・漢字で書くべき箇所をひらがなで書いてしまう（5名）
- ・意見がよくまとまらない。
- ・接続詞がうまく使えない
- ・段落のつけかたが下手なところ
- ・似たような言い方をしているところ
- ・接続語の多さ
- ・言葉づかい（話し言葉の文章）
- ・句読点までが長く文がぐちゃぐちゃになってしまう
- ・自分は分かっている、読む他人はわかりにくくなってしまう。
- ・例がなかったこと
- ・主語がぬけてしまうこと

- ・使わなくてもいい言葉をちよくちよく使っていました
- ・文章を構成する際に、「丁寧語」や「尊敬語」があるが、その点の違いが未だに分からずに、混ぜて使っていたかもしれない
- ・一文が長いので、短くした方がいい
- ・文章の途中に点が多い

(複数回答有 全回答)

アンケート記入時に学生が原稿を見ることはなく、記憶に残っていることのみで回答を行った。これらの結果から、それぞれが直すべき文章の癖について意識することができたといえる。

質問：これから文章を書く際に大事にしたことは何ですか？

- ・自分の意見、新聞や記事の情報を相手にわかりやすく書く (2名)
- ・文章の構成を考えて書く。(2名)
- ・自分の伝えたいことをしっかりとまとめる (2名)
- ・誰が読んでも分かりやすい様に具体例を加えたりして、文を書く
- ・相手に分かりやすいように書くこと (3名)
- ・相手に伝えたいことを強調すること (2名)
- ・自分の気持ちとか感じたことなどをストレートに書くこと。自分が思ったプラスなことだけではなく、マイナスなことも理解して書くこと。
- ・「です・ます」「である」調の統一
- ・読み手を考えて書くこと
- ・自分の意見を最初にしっかりかためてまとめておくこと (複数回答有 全回答)

ほとんどの回答が「他者に分かりやすく書く」「自分の意見を確立する」という内容を含んだものであった。また、「意見文の相互発表をしたことで、気付いたこと・してよかったと思うことはありますか？」の問いには、「自分だけの考えだけではなく他者の考えを聞き、自分の気が付かなかった点に気付くことが出来たり、自分の中で柔軟な考え方が出来るようになったように感じます。そこが良かったと思います」という回答が出され、これに似た内容が8名から挙げ

った。これにより新学習指導要領に明記された「交流」は、短期大学生でも重要な学びとなることが確認された。(その他回答には、話し方・聞き方に関する意識の大切さ等が挙げられた。)

## V まとめ

大学生の文章力向上を目指した実践として、片山(2001)<sup>8</sup> 小山(2007)<sup>9</sup>がある。片山は、12回の授業の中で9回論文を課し授業者が添削を行っている。学生は、毎回の添削に非常に関心を持ち返却時には必ず、添削されたレポートを見せ合って講評し合っていたという。また、添削のコメントの中でも、「ほめ言葉」と「具体的改善例」は特に重要であったことが報告されている。小山は学生自身が自分の作文を添削する「推敲」を授業に取り入れた。これは、学生の書いたものを教師が赤ペンで添削し、評価やコメントをつけて返すのみでは学生が受け身に徹して学びがないという理由からである。推敲の効果を実感することができたが、一部の学生には推敲自体が難しい実態も報告された。また、授業後時間が経つと推敲作業を忘れる傾向にあり、習慣づけが重要であることが述べられている。

筆者は今回、自己添削を課すという点で、小山に近い実践を行った。比べ読みの記事を選定し、構成メモの取り方を示した上で、個別に対応しつつ授業を進めたことで、言語能力に困難を抱えていると思われる学生(1名)を含む全員が課題を達成することができた。小山の報告にもあるように、文章能力には大きな個人差がある。全員が意欲的に参加でき、個々の能力を高められる指導の工夫が重要である。

今回の実践は、自己添削を通して自分の間違いの癖を知り、他者に伝わる作文を書けるよう注意する姿勢を培うところまでは達成できたと考えられる。しかし、意見文の発表までで終了させてしまったため、今後学生が自分の間違いのポイントを意識しながら文章作成ができるかという検証までは進めなかった。本実践のみで、学生の「書く能力」が上がり、他者に伝わる文章表現が身に付いたとは言えない。二年生になると「日本語表現」の授業はなくなるが、筆者の受け持つ「保育内容(言葉)指導法」等で、記事や文献を読んだ感想文・意見文の交流は継続して行わせたい。

「日本語表現」の今後の展望として、今回検証した‘学生の間違いやすい表現’を全て伝えた上で、まずは自己添削を行い、その後学生同士の相互添削を行う授業を考案したい。互いに自分の気付かなかった‘ものの見方’に触れつつ、他者の文章の添削を行うことで文章表現に関する意識が高まると予想される。また、片山の報告にある「ほめるコメント」を互いに入れさせることで相互添削への抵抗を軽減したい。

小・中・高等学校の作文や小論文の授業は、教師主導で行われているだろう。教師から生徒の文章にA・B・Cをつけ、無記名で印刷し、それぞれを読ませて「良い小論文（Aの小論文）」を目指すよう指導する方法もある。しかし筆者は、大学生に対する授業展開として教師先導ではなく学生自身が気づき、学び、互いに高め合っていく授業を考案したい。また、作文の題材を学生が目指している保育士・幼稚園教諭の職に関するものや、子どもを取り巻く社会問題（虐待や育児支援）等から選定し、より深く考えさせた上でそれぞれの見解を交流させ、多様なものの見方や解決策に気付かせたい。

本稿では、学生の文章から改めるべき文章表現の15のポイントの抽出、自己添削がもたらす意識変容の効果、交流の有効性について確認した。これらを踏まえた上で、学生の更なる文章力向上のために授業を工夫していきたい。

#### 注

<sup>1</sup> 高木（筆者の旧姓）香織. 保育者養成校における「日本語表現」の実践—大学の特色を活かす授業実践の試み—. 埼玉純真短期大学研究論文集. 2008, (1), p. 65-71.

<sup>2</sup> 現在の大学生の基礎学力低下について、J-CASTニュースでは、次のように報告している。「大学生の基礎学力の低下を受け、独立行政法人・メディア教育開発センター(NIME)では、日本語・英語・数学の基礎学力を測定するための「プレースメントテスト」を開発し、各大学で提供している。調査は1998年から00年、04年から07年にかけて行われたが、「日本語力が中学生レベル以下」と判定される大学生の割合が非常に多いのだ。まとまったデータが残っている04

年時点(24大学・7353人が受験)で、「中学生以下」なのは、国立大学で6%だったのに対し、私立大学では20%で、短大では実に35%。06年の調査では、66%が「中学生以下」と判定された大学もあった」(J-CASTニュース, 私大生2割「日本語力中学生以下」学力底上げにeラーニング導入.2008.(2011.02.25)より抜粋)

<sup>3</sup> 文部科学省.「中学校学習指導要領解説 国語編」.2008. p.110-111

<sup>4</sup> 文部科学省. 学士課程教育の構築に向けて(中央教育審議会答申). 2008. [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067\\_001.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf) より抜粋(2011-02-25)

<sup>5</sup> 英語のクラスが指導者を入れ替えるため、日本語表現も同様にしたいとの意向により決定した。

<sup>6</sup> 及川綾子, 佐々波幸子. “どろんこ遊び人気 清潔志向に違和感も”. 月刊 切り抜き速報 保育と幼児教育版. 株式会社ニホン・ミック. 2010, 9(285), p.13.

<sup>7</sup> 石川純. “「不潔は嫌」屋内砂場 - 犬猫よけ砂場には柵 - ”. 月刊 切り抜き速報 保育と幼児教育版. 株式会社ニホン・ミック. 2010, 9 (285), p.94.

<sup>8</sup> 片山章郎. 新入生の文章力に対する一考察. 年会論文集. 2001 ,(17), p.184-187.

<sup>9</sup> 小山真理. 作文授業における推敲. 文化女子大学紀要. 人文・社会科学研究. 2007, (15) , p.127-135

#### 参考文献

1. 石川純. “「不潔は嫌」屋内砂場 - 犬猫よけ砂場には柵 - ”. 月刊 切り抜き速報 保育と幼児教育版. 株式会社ニホン・ミック. 2010, 9 (285), p.94.
2. 伊豆原英子. 「日本語表現法」教育をめぐる問題点と課題. 愛知学園大学教養学部紀要. 54(4), 2007, p. 1-12.
3. 及川綾子, 佐々波幸子. “どろんこ遊び人気 清潔志向に違和感も”. 月刊 切り抜き速報 保育と幼児教育版. 株式会社ニホン・ミック. 2010, 9(285), p.13.
4. 小山真理. 作文授業における推敲. 文化女子大学紀要. 人文・社会科学研究. 2007, (15) ,

p.127-135

5. 片山章郎. 新入生の文章力に対する一考察. 年会論文集. 2001 ,(17), p.184-187.
6. 文部科学省. 小学校学習指導要領解説 国語編. 東洋館出版社. 2008.
7. 文部科学省. 中学校学習指導要領解説 国語編. 東洋館出版社. 2008.
8. 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説 国語編. 教育出版. 2010.

参考URL

文部科学省. 学士課程教育の構築に向けて（中央教育審議会答申）. 2008. [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067\\_001.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf) (2011-02-25)

J-CASTニュース. 私大生2割「日本語力中学生以下」学力底上げにeラーニング導入. 2008. <http://www.j-cast.com/2008/01/05015222.html>.(2011.02.25)

<資料1 配付資料概要>

「意見文を書こう」

その一（まずは材料集めと構成メモから）

**題材** 新聞記事

- 「不潔は嫌」屋内砂場〔読売新聞〕
- いまどきの公園にひと言（居場所編5）  
泥んこ遊び人気・清潔志向に違和感も〔朝日新聞〕より

**まず最初に…**

- 感想を書いてみる。
- 取り上げる事柄について、プラス・マイナスの両面を考え、書き出す。
- プラス・マイナスの両面を考えてみても、やはり自分はこちらの意見だという、確固たる自分の主張を決める。

**準備**

- ① 自分の意見をしっかり確立する。
- ② その意見に関連した体験や見聞を集める。
  - 根拠となる事例を示す場合は、それは本当なのかを調べておく。推測だけでものを言わないこと。
- ③ 反対意見を予想し、反論を考える。

**構成メモを作成する**

次の六段階の筋を並べ、それぞれにどの内容を入れ込むか、メモ書きしておく。

- ① 自分の意見
- ② 意見を持つに至った具体例
- ③ あえて、反論を立てる
- ④ 反論に対する反論（もしくは解決策）
- ⑤ 自分の主張の説得力を高める（体験や見聞等で根拠を明確にして）
- ⑥ 結論（自分の意見をもう一度）

**意見文を書く**

実際に文章を書く。

**推敲をする**

誤字脱字・重複がないか・一文が長すぎないか・主述のねじれはないか等もチェック！

<資料2>

**構成メモを作成する**

- ① 自分の意見
- ② 意見を持つに至った具体例
- ③ あえて、反論を立てる
- ④ 反論に対する反論
- ⑤ 自分の主張の説得力を高める
- ⑥ 結論